



昭和56年8月、豊平川の氾濫で冠水被害（東米里地域）



昭和56年8月、記録的大洪水時の豊平川の様子



提供：消防科学総合センター www.isad.or.jp

# 共助

## 自分たちのまちは自分たちで守る

大規模な災害発生時、地域での住民同士の協力や助け合いが不可欠です。日頃から地域でのつながりや顔の見える関係を築くことが重要です。

### 自主防災組織の取り組み

区内約140の町内会などが、自主防災組織を作っています。日頃から地域の防災力向上のため、連絡体制の確立に努めるほか、各種の訓練を行うなど防災意識を高めています。

#### ◎防災訓練

町内会やマンションなど地域ごとに、消防署の協力の下、消火・避難訓練などを行っています。

#### ◎災害図上訓練（DIG）

災害時の行動想定や避難経路の確認などを、自分たちの住む地域の地図を用いて行います。

#### ◎防災マップ作り

住民自らが地域を実際に歩き、避難場所や危険箇所などを地図に表示。住民間で情報共有します。

### 災害時要援護者避難支援

高齢者や障がいのある方など、自分や家族の力だけでは避難することが困難な方には、地域住民などの支援が必要になります。

#### ◎支援活動の仕組みづくり

あらかじめ地域の中で、支援が必要な方（要援護者）と支援ができる方（支援者）を決めて組み合わせ、平常時から声掛けや見守りを行います。活動の支援母体は、地域ごとに町内会や自主防災組織、福祉のまち推進センターなどが担います。

#### ◎災害発生により避難が必要な場合

支援者が要援護者に必要な情報を伝えて安否を確認し、要援護者と一緒に避難します。

注 要援護者の避難支援は義務ではなく、まずは自分や家族の身の安全を確保した上で行うものです。

# 公助

## 行政機関による救援・救護

災害時、市・消防・警察・病院などが救助活動や支援物資の提供、情報提供を行います。区では、日頃の自助や共助の取り組みも支援しています。

災害発生直後から、行政機関は直ちに緊急対応に努めます。しかし、火災や崩壊など多くの被害が発生すると、個別支援が難しくなります。

そのため災害発生当初は、自助や共助により、地域で支え合いながら危険な状況を乗り越えることが必要です。

区では、自主防災組織などの取り組みに対する支援も行っています。

#### ◎地域の取り組みへの支援

- ・家具等転倒防止対策講習会
- ・防災リーダー研修会
- ・自主防災組織への防災資機材の提供
- ・DIGや防災マップ作成支援
- ・災害救急医療情報キットの配布支援

### 地域全体のつながりが大きな力に。

札幌市総合防災訓練（8月31日実施）では、災害時要援護者避難訓練として、町内会で実際に避難体験をしました（下記写真④）。私たちの町内会では、地域の皆さんの協力の下、要援護者と支援者との組み合わせを終えて、今後、避難用地図の作成も考えています。過去に何度も水害で苦労している地域ですから、みんなで協力して乗り越えようという自主防災の意識は、自然と身に付いているのかもしれない。日頃から地域が一つにつながっていれば、防災だけではなく、多くの場面でお互いを支え合う大きな力になるのだと思います。



東米里町内会  
会長 吉本 勝さん

防災に関する冊子やマップを区役所などで配布しています。



区役所や区内各まちづくりセンターで、地震防災マップ・洪水ハザードマップなどを配布しているほか、札幌市防災DVDの貸し出しも行っています。

